

第5回 特別展



歴史と民族の 十字路

新大陸に渡った
モンゴロイドの末裔たち



開館時間 9時30分～16時30分
休館日 月曜日 2月16日・3月20日

特別展観覧料

一般	高校生・大学生	小学生・中学生
250(200)円	80(50)円	50(30)円

* かつこ内は10人以上の団体の場合

表：上部に人物像のある石柱
元古奥期後期（B.C.500～A.D.200） 出所：グアテマラ博物館収蔵

1993 **2/9(火)～3/21(日)**



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒993 北海道網走市字朝見313-1

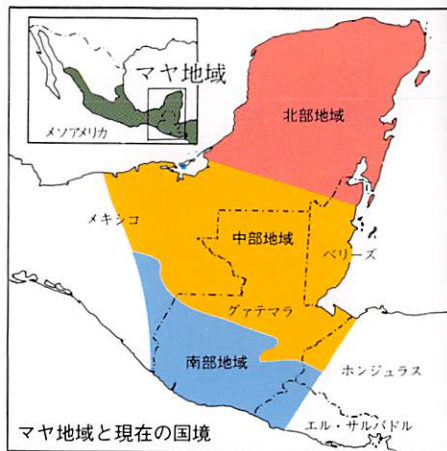
☎ 0152-45-3888

■主催 北海道立北方民族博物館
たばこと塩の博物館

後援 外務省 文化庁 グアテマラ大使館
協力 グアテマラ国立考古学民族学博物館
グアテマラ国立人類学歴史学研究所
ボル・グフ博物館 東京家政大学 京都文化博物館
コンピュータ・システム株式会社 NHKプロモーション

古代マヤ文明

数万年前にシベリアからアラスカを経て新大陸に渡った人びとは、採集狩猟民として短時間で南北アメリカ全体に拡がり、それぞれの自然環境に適応してきた。なかでもメソアメリカとアンデス地域では、農耕を基盤として、新大陸の二大文明を展開した。◆古代マヤは、トウモロコシなどの栽培をもとに、都市建設、石彫や土器にみられる美術表現、高度な数学・天文学・暦、特異な絵文字などを発達させてきた。マヤ文明が「謎」といわれる理由には、都市が廃墟となっていること、金属器・車輪・家畜の欠如や自然環境が他の大陸の古代文明と異なることなどが挙げられるが、それらは西欧中心の文化史を覆すものだった。◆マヤは自らも多くの特産品を持つ交易の要所であり、他地域の影響を受けながら盛衰を繰り返した。自然環境や文化期・文化内容の違いから温暖で肥沃な「南部地域」、熱帯雨林の「中部地域」、乾燥した「北部地域」に分けられる三地域のうち、これまでは石造神殿が数多く残されている北・中部地域が神秘的だとして注目されてきた。しかし勢力が移動する歴史のなかで、南部こそが文明の源であり、真のマヤ史を探る上で重要であることが明らかになってきた。



マヤ地域と現在の国境

マヤ地方概略年表

時代区分	年代	マヤ地方の動向
後古典期	1500	スペイン人による征服が始まる
		マヤパン衰退、統一勢力の消滅 小国割拠の時代
	1200	北部地域でメキシコ北部のマヤパンがチチェン・イツァを征服支配
	1000	マヤ北部でチチェン・イツァ、ウシュマル、マヤパン三都市同盟による安定期 〔マヤ・トルテカ文化様式成立〕
古典期		メキシコ沿岸マヤの一派プトゥン勢力が拡大
	700	テオティワカン滅亡
	500	北部低地では多くの都市で規模、人口が拡大する
		テオティワカンの支配衰退、多くの都市が崩壊・抗争（南部・中部地域） 〔安定期〕 中部低地のティカルを中心に石造都市文化が発展
先古典期	200	メキシコ中央高原テオティワカン文化のマヤ南部征服、マヤ地方支配開始
	A.D.	
	B.C.	カミナルフユを中心に南部地域で都市の発展、碑文や暦を持つ石彫が造られる（マヤ的美術表現の誕生・年代記録）
		〔マヤ南部太平洋岸斜面に土の建築物文化〕
前古典期	800	定住農耕・土器作りの開始
	2000	
	5000	トウモロコシ栽培が始まる（原初農耕）
		採集狩猟文化



マヤ南部地域の自然（海拔1500mのグアテマラ盆地）



トウモロコシの神（マドリッド絵文書より）



メルカードに並ぶ色とりどりの野菜

現代の人びと

かつてのマヤの暮らしが、絵文字の解読やスペイン征服当時の宣教師の記述などから明らかになるにつれて、今日の人びとの生業や精神文化、社会組織などには驚くほど伝統が受け継がれていることがわかってきた。キリスト教も自分たちの世界観のなかで解釈され、独自の宗教となって継承されている。またマヤ南部地域の大部分を占めるグアテマラでは、現在も人口の約6割が先住民であるマヤ系の人びとで、大部分の言語もこの地に残されている。◆主食であるトウモロコシやインゲンマメ、カボチャ、トマトから、トウガラシ、カカオ、タバコ、チクル、綿などの香辛料・嗜好品・薬草・繊維といった工芸作物までの多様な植物利用は古代からの特色とされ、さまざまな物資が取引されるメルカード（市）には、各村独特な衣装を身に着けた人びとが集まる。この美しい布からも、織り出す文様を計算し記憶する優れた「数」の概念が見てとれるという。◆寒冷な北方という厳しい環境に適応した文化と、マヤのような熱帯で高度に洗練された文化は、両極端にありながら長く独自のスタイルを持ち続け、ヨーロッパ文明の影響を受けながらも、うまくそれを組み込んでいったように思われる。